

---

# **病室と涙 様々な想いを胸に**

刹那

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

病室と涙 様々な想いを胸に

### 【NZコード】

NZ870N

### 【作者名】

刹那

### 【あらすじ】

家族が妹だけという主人公。妹だけが彼の全てだった。  
その妹が肺がんにより病院に入院。その病室内でのオリジナルストーリー。

(前書き)

第五回、おもこつき余興作品。  
興味があつたらお読みください。

「どうしたのお兄ちゃん?」

琴那の言葉で我を取り戻す。

ここは琴那の病室。

今、俺は琴那の見舞いに来ている。

琴那は肺がんで半年前からここに入院している。

八歳という若さにはあまりにも過酷過ぎることだった。

肺がん発見から半年後が余命と宣告されたあの時はまだ時間はある

と思ったが半年経った今、そんな事は思えない。

もう、いつ死んでもおかしくなかつた。

「いや、なんでもない」

琴那には肺がんの事は伝えていない。

もちろん余命の事も。

きっとその方が琴那にとって良いことだと医師との相談の結果決

まった。

寝つきりだった体も今日は調子が良いらしくベッドに座る体勢で俺と話をしている。

「毎日ありがとうね。はやく元気になるから」

琴那の言葉が胸に突き刺さる。

医師から聞いていたことだが死期間近になると超回復を見せるらしい。

もしそれが今の琴那の状態なら……。

考えるだけでも涙が出そうになる。

「ああ」

剥いてやつたリンゴを完食した琴那はお腹を擦っている。  
お腹いっぱいといふ意思表示だ。

その光景をみれば、今までのつらい事なんて全て消し飛ぶ。

琴那の肺がんの事さえも。

「めん。なんか眠たくなってきた。折角してくれたのに……」「めんね

「いや、良いくよ」

「いいこ……。

琴那は身をベットに倒し、目を瞑る。

俺はそつと琴那の手を握る。

「どうしたの?」

「ううん。たまには良いかなって」「そつか

琴那な俺の手を握り返す。

その手はとても暖かかった。

「目が重たい……。」

琴那が呟く。

俺はもう分かりきっていた。

琴那の体がもう限界に来ていることが。

そしてそれがついに表に出始めただけのこと。

覚悟していた。分かっていた。

なのになんでだ?

なんでこんなに胸が痛いんだ。

「それは、もう瞼が眠い眠いつて言つてるんだよ、うまく言葉であやす。

「そつか。じやあ寝るね」

「ああ、おやすみ」

「おやすみ」

病室が静寂に包まれる。

琴那の小さな寝息だけが聞こえる。

手は握り締め合つたまま。

もう、目を覚まさない。

そう感じる。

涙が溢れ出す。

止まらない。止まらない。止まらない。

空いてる手で拭つても次々と溢れだす。

くそつっ！何でだよーなんで……。

「お兄……ちゃん」

琴那が咳く。

寝言のようだ。

だから黙つて聞くことにした。

「ありがとう……樂し……かつたよ。ずっと一緒に……届よつむ。

お兄ちゃん……大好き」

最後の一言でさらには涙が出た。

握り締めた手に力が入る。

でも琴那は目を覚まさない。

寝言が途切れると共に、寝息も聞こえなくなつた。

握り合っていた手も、いつの間にか俺が一方的に掴む形になつていて。

なにより、その琴那の手は、冷たく……暖かさを残していった。  
なつか

「琴那！…… 琴那！……」

俺の叫びは病室に木霊するだけ。

琴那には届かない。

俺は冷たい琴那の手を両手で握り、額を引き寄せた。

俺の全てを失つた。

悲しい。寂しい。空しい。

琴那の声が頭に渦巻く。

いつまでも続くはずだった幸せは、一瞬にして終わる。

あまりにも残酷だ。

神様は俺みたいな……クズを生かして、琴那みたいな未来のある少女を死なすなんて。

頭がイカれてるとしか思えねえ。

きっと琴那も寂しい思いをしているはず。

だから主治医が来るまでそばにいてやるわ。

そう自分を甘やかす。

俺の涙は地面に落ち、弾け去る。

「ごめんな。

ありがとう。

大好きだ。

来世でも知り合いになろうな。

様々な想いを胸に

俺は琴那の手をしつかり握った。

END

(後書き)

更新遅れています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5870n/>

---

病室と涙 様々な想いを胸に

2010年10月10日07時49分発行